

中国地方観光情報 第四弾

島根県編②



島根県には、大きくわけて出雲、石見、隠岐の三地域があります。出雲にはラムサール条約登録地の宍道湖や神話伝説。石見は世界遺産の石見銀山、隠岐には牛突きのお祭り伝説があります。そのほかにも、見て、聴いて、味わってと様々な愉しみ方ができる島根県。筆者も何度か訪れ、島根の魅力のとりこになりました。しかしながら、その感動をつたない文章で伝えるのは本当に難しい。この記事を読んで島根に興味を持って頂き、島根県大阪事務所の観光資料などで情報を集めて頂けたら幸いです。

世界遺産・石見銀山

石見銀山は、大田市大森町一帯にあった日本最大の銀山の名称です。16世紀半ばから17世紀初頭の最盛期には、日本は世界の総産出量の3分の1の銀を生産し、中でも石見銀山は、その大部分を算出していたといわれています。石見銀山が佐摩村にあったことからソーマ銀と呼ばれ、中国、朝鮮などのアジア諸国、ポルトガルやスペインなどのヨーロッパ諸国に輸出されていました。石見銀山は、1526年に発見されたと伝えられ、本格的な採掘が行われたのは戦国時代からといわれています。筑前博多の神谷寿禎が仁摩町の沖合を航行中、南方の山が輝いているのを見つけ入山したのが最初のこと。製錬技術は、朝鮮から導入した灰吹法。鉍石と鉛を一緒に溶解して銀と鉛の合金を造り、これを灰を充填した灰吹床の上で炭と送風で燃焼させると、鉛が酸素と結びついて酸化鉛となって灰に吸収され、銀だけを取り出せるのです。この手法により、石見銀山の産銀量は飛躍的に伸び、やがて生野や佐渡の銀山にも伝えられ、日本に銀の大量生産時代をもたらします。灰吹法の導入後、大内氏、小笠原氏、尼子氏、毛利氏による銀山争奪戦が繰り広げられ、最終的に毛利氏が支配し、毛利氏が豊臣秀吉の服属になると、銀は朝鮮出兵の軍資金にも充てられました。その後、関ヶ原の戦いで全国統一した徳川家康は、石見銀山を接収し幕府直轄地として支配しました。1596～1644



世界遺産・石見銀山

年が生産の隆盛期であり、江戸幕府が手放し、長州藩が短期的に支配していた時期を経て、銀の算出量が減少してゆき、1869年、明治政府の管轄となりました。その後は休山と操業が繰り返されてきましたが、とうとう1943年に閉山となりました。2007年、「石見銀山遺跡とその文化的景観」は、日本と各国の間に交流をもたらしたことや、環境に配慮し、人と自然が共生しながらの銀生産を実現させたことなどが評価され世界遺産に登録されました。4月から11月の土日祝日は、大久保間歩まぶという石見銀山最大の坑道をガイドの案内付きツアーで入坑することができます。

伝統行事が息づく隠岐

隠岐は相撲が盛んです。島でおめでたいことがあったときに、神社や学校などで地域ぐるみの隠岐古典相撲を開催するという風習があります。この相撲の特徴は、三重の土俵でとること、勝負にしこりを残さないよう一勝一敗の引き分けで終わらせること、個人の勝利ではなく力士を選出した地域同士の勝負であること、そして神事であることです。祝い事のある地域の者が座元（興行主）をつとめ、寄り方とよばれる他地域の小中学校から成人まで300人ほどの力士が2日にわたって夜通し取り組みを行います。大関、関脇、小結が役力士で横綱はおきません。対戦した者同士は生涯の友人として交流する習わしとなっています。相撲が終わると土俵を解体し、地表に立てられた柱に役力士がまたがり、皆で担いで帰ります。家の軒下に土俵の丸木柱がつるしてあるのを見かければ、役力士を務めたことがわかるようになっていきます。隠岐出身の大相撲の隠岐の海関が、幕内力士となった事で相撲熱はますます盛んとなり、来年1月12日から錦織良成監督の映画「渾身」（こんしん）がロードショー公開されます。白熱の隠岐相撲と隠岐の魅力をご期待下さい。

一方、闘牛による牛突きも隠岐の伝統行事です。隠岐の牛突きは、1221年承久の乱で隠岐に流された後鳥羽上皇を慰めるため始まったとされています。現在は島後だけで行われています。ツキウシの雄牛は2〜6歳。800kgを超える牛がツナトリの手綱さばきで角を突き合います。頭取りしやうどりが判定を行い、逃げ出した牛が負けになります。本場所ほんばしょは年に3回行われますが、観光牛突きは、隠岐モーモードームで年中開催されています（団体予約のみ）。

滑稽などじょうすくいの仕草で親しまれる安来節は、島根を代表する民謡の一つです。幕末の頃、鳥取県境港の三子という芸妓が北前船の船乗りから習った各地の民謡に工夫を凝らした「さん子節」に、安来の大塚順仙が手を加えて、安来節の原型をつくったといわれています。どじょうすくいの踊りの発祥は、どじょうを肴に酒宴の際、即興でどじょうを掬う動作を真似たところ、安来節のリズムとうまく合った事がきっかけのこと。現在は、安来節全国大会や4代目お糸を中心に公演され、安来節の保存普及が図られています。

2回にわたって、島根は出雲神話と松江の観光、そして世界遺産、伝統行事を紹介しま



安来節（どじょうすくい）

隠岐古典相撲

したが、まだまだ、ほんの一部。冬になって、日本海の味覚もおいしくなる季節です。もっと島根県を良く知っていただきたい。旅行の前に、島根県の大阪事務所を訪ねて頂けたら幸いです。

島根県大阪事務所

大阪市北区西天満3の13の18島根ビル2階

06・6364・3605

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞